

内外交差点

はなまるが教える 年末年始の運転の注意点 タクシー会社が繁忙期に守るべき安全指標

大川 大輔氏 (はなまる新規事業本部課長) 第9/12回

繁忙期こそ警戒！

収益と背中合わせの「事故リスク」

年末年始は、タクシー需要が年間で最も伸びる時期の一つです。特に12月中旬～1月上旬は平常月の1.2～1.4倍の乗務回数となり、深夜稼働も増加します。一方、警察庁統計では、12～1月の交通事故件数は平均より15%多く、繁忙期ほどリスクが高まります。事故ゼロ研修を行う当社が、この時期に守るべき「安全指標」と「乗務員管理のポイント」を6つに整理しました。

1. 速度管理: 凍結路では“10～20%の速度低減”を基準に

降雪地域では、路面が濡れているだけでも制動距離が1.5倍、凍結すると3～4倍に伸びることが実証されています。当社では、特に深夜早朝の橋や日陰で通常速度から10～20%落とすとともに、車間距離を最低2秒から3～4秒へ拡大するという基準を推奨しています。急いだ2分より、安全の1秒が冬季運転の鉄則です。

運転は ゆとりとマナーの ニ刀流

2. 歩行者リスクの増大: “飲酒歩行者”は通常期の約1.3倍

忘年会・新年会シーズンには、深夜帯の歩行者関連事故が増加し、警察庁データでも飲酒関連の歩行者事故は12月が年間最多です。繁華街周辺では、タクシー乗り場付近での信号無視歩行者が平日比で約1.3倍、ふらつき自転車も同1.2倍といった傾向があります。当社では、歩行者視認時に「止まれる速度」に落とす“事前減速”を、従業員教育の優先項目にしています。

3. 長時間運転による疲労管理: 4時間で集中力は20%低下

年末年始は乗務時間が長くなりがちですが、人間の集中力は連続運転2時間で約15%、4時間で20%以上低下します。当社では、連続運転は最大2時間までとし、1回5～10分の短時間休憩でも必ず取るよう指導しています。休憩時は車外に出て姿勢を変える「マイクロ休憩」を推奨しています。

体調を管理するもの プロの技

4. 交通規制と工事増加: 12～3月は工事件数が約1.2倍

国交省統計では、年末～年度末の工事件数は通常期の約

1.2倍です。タクシーの場合「いつもの道の急な片側規制」が事故につながるケースが多く、当社では、出庫前に工事情報を共有し、あらかじめ迂回ルー

ートを2パターン以上持っておくという“情報による事故削減”を重視しています。

5. ドア開閉事故: 荷物がある乗客は接触リスクが1.5倍

年末年始は、大きなスーツケースを持つ乗客が増加し、ドア開閉時の巻き込み事故が起きやすくなります。当社では、降車時の「一呼吸おいて後方確認」の徹底を“冬季リスク低減の最重要行動”と位置づけています。

無確認 事故する貴方は 無責任

6. トラブル時の行動ルール化: 手順書の有無で対応速度2倍

万が一の立ち往生や接触事故が起きた際、行動手順が明文化されている企業は、そうでない企業の約半分の時間で適切な処理が行えるという業界調査もあります。当社では、緊急連絡先の共有や、事故時の乗客対応マニュアルの整備、ドライブレコーダーの作動確認など、「平常時に準備する安全」を重視しています。実際に当社の社用車全台に、「事故対応マニュアル」を積載しています。

おわりに

年末年始は、収益性とリスクが同時に高まる時期です。当社が提唱する「数字に基づく安全行動」は、乗務員の思い込みを排除し、習慣化を促す実践的な安全管理手法です。繁忙期だからこそ、基本行動を“数値で再確認”し、乗務員一人ひとりの行動精度を高めることが事故ゼロへの近道となります。

事故防止 初心にかえろう 何度でも

当社では、座学だけでは学べない実地での「事故ゼロ研修」を実施しています。受講者に日常業務で遭遇しうるシーンを体験していただいております。事故ゼロ研修に興味がある方は、ご連絡を心よりお待ちしております。



* 研修実施でハンカチプレゼント！

